

発達障害の理解と支援

4

高機能自閉症の理解と支援

(1) 高機能自閉症とは

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。

アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れの伴わないものを指します。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は広汎性発達障害（PDD）に分類されるものです。

広汎性発達障害（PDD）は、一般に自閉症に近似した特徴を示す発達障害の総称として用いられる概念です。また、自閉症スペクトラム障害（ASD）という用語が用いられることがあります。これは、自閉症やアスペルガー症候群がそれぞれ独立したものではなく、状態像に類似性のある連続的なものであるという考え方で、広汎性発達障害とほぼ同義で使われています。自閉症の特性として、下記のことが挙げられます。

他人との社会的関係の形成の困難さ	<ul style="list-style-type: none">・年齢相応の仲間関係をつくるのが難しい。・相手の気持ちを考えたり、相手の立場に立って考えたりすることが苦手。・楽しい気持ちを他人と共有することが苦手。・「場」の空気を読むことが苦手。・周りの人が困惑してしまうようなことを配慮なしに言ってしまう。・視線や表情のニュアンスを理解したり活用したりするのが苦手。
言葉の発達の遅れ	<ul style="list-style-type: none">・字義通りに解釈してしまう。・行間を読むことや、冗談・比喩などを理解するのが苦手。・言葉遣いに、独特の言い回しがある。・会話の仕方が形式的で、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりする。
興味や関心が狭く、特定のものにこだわる	<ul style="list-style-type: none">・興味や関心の幅が狭い。・一般化や応用が苦手。・特定のものや習慣への「こだわり」。・急な予定の変更や新しいことへ対応することが苦手。・常同的で反復的な行動(例えば、自分の目の前で手をヒラヒラさせる等)をすることがある。

この他にも、人によって、以下のような特性が見られます。

感覚の独特な過敏・鈍感さ	<ul style="list-style-type: none">・聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚などの過敏、又は鈍感さ。・他の人が気にならないようなある種の刺激が極端に苦手。(個人差はある)
視覚的な情報処理が得意	<ul style="list-style-type: none">・話し言葉での指示よりも、視覚的に提示された情報の方が理解しやすい。
2つ以上の情報を同時に処理することが苦手	<ul style="list-style-type: none">・一度に複数の指示を出されると、混乱してしまう場合がある。・話を聞きながらだと、板書をノートに写せない。
「実行機能」の弱さ	<ul style="list-style-type: none">・一つのことをやり遂げる際に段取りを考えて行動することが苦手

自閉症のある児童生徒は、他者とのコミュニケーションがうまくとれず、その行動は独特で、

「風変わり」「がんこ」「場の雰囲気を読めない」などと思われ、周囲から誤解されてしまうことも多いようです。そのため、円滑な対人関係を築くことが難しくなってしまいます。

(2) 伝わりにくい・受け止めにくい抽象的な指示・言葉の例

抽象的な言葉ではよく分かりません。できるだけ具体的な言い方に変えてみましょう。

<p>「<u>しっかり</u>掃除しなさい。」 「<u>ちゃんと</u>並びなさい。」 「<u> </u>さん、<u>しつこいよ!</u>」</p>	<p>「1分間に廊下を雑巾がけで5回往復しましょう。」 「前後左右の人と同じ間隔になるように並びます。」 「友達と遊びたい時は、『遊ぼう』って言おうね。でも、友達も用事があって遊べない時もあるから、その時は諦めようね。」</p>
---	--

(3) 高機能自閉症のある児童生徒への支援のポイント

	支援のポイント	支援例
学習 への 支援	<p>学びやすい方法を見つける 能力が不均衡なため何事も平均的に、他の児童生徒と同じように学ぼうとすると難しい場合があります。</p>	<p>学びやすい内容や方法を本人や家庭と一緒に見つけましょう。一般的に、聞いて学ぶよりも見て学ぶ方が得意です。 (例)実物、イラストや写真で示す。メモやパソコンを活用するなど。</p>
	<p>分かりやすく集中しやすい環境を整える 本人に過度の努力を求めるよりも環境を調整する方が効果的です。</p>	<p>意味の分かりやすい環境にするために時と場を構造化します。 (例)授業の流れを視覚的に示す。話を聞く時間とノートをとる時間を区別する。黒板周辺の掲示物をシンプルにする。刺激の少ない個別的な学習ができる部屋を用意するなど。</p>
生活 への 支援	<p>集団行動のルールを丁寧に教える 社会性の特性は、集団行動へのなじみにくさ、例えば時間や場所を気にしないマイペースな行動などとして現れます。</p>	<p>その場、その時にどのようにしたらよいかを具体的にスキルとして教えます。予定を事前に伝え、見通しを持たせることも重要です。 (例)掃除の仕方、順番の守り方、授業中の発言の仕方など。授業の予定。</p>
	<p>持ち物や行動の自己チェックを習慣化する 言われたことを覚えること、整理すること、予定の把握や臨機応変な対応が苦手です。</p>	<p>チェックリストを活用するなど視覚的に示します。 (例)宿題や持ち物のチェックリスト、登校してからの身支度の手順など。</p>

(4) 中学校・高等学校段階の支援のポイント

適切な自己理解

他の人との違いを「劣っている点」と否定せず、特性の良い面を理解できるようにします。得意分野や興味を活かすことで、優れた能力を発揮できます。

ストレスへの配慮

進学に伴って同級生間の人間関係が複雑化したり、異性への意識やプライバシーの感覚が強まったりするため、対人関係の悩みやストレスが強まります。学級だけで対応するのではなく、養護教諭や相談室と連携した心のケアが重要となります。

適性に合った進路選択

本人の適性に合った進路かどうか情報を整理し、全体的なイメージが持てるようにします。

* 参考：埼玉県立総合教育センター研究報告書 395号

「自閉症の児童生徒への指導の在り方に関する調査研究(2年次/2か年研究)」(H28年度)

『もっと知ってほしい 自閉症の理解と支援のためのガイドブック』

(総合教育センター特別支援教育担当HP：http://www.center.spec.ed.jp/?page_id=209)